

仙台市の医療提供体制に関する懇話会

第2回資料

2021年12月24日
(株)グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

GLOBAL HEALTH

1



2. 宮城県、仙台医療圏、および本市 の救急搬送者数の現状と将来予測 について

2



2. 宮城県、仙台医療圏、および本市の救急搬送者数の現状と将来予測について

- 将来予測にコロナの影響を加味：受診行動の変化はafterコロナも継続。軽症やタクシー代わりの救急要請はbeforeコロナの水準まで戻らない。

- ✓ R2のコロナ禍では、救急出場件数と搬送人員数はR1と比べ11-12%減
- ✓ 消防データから減った搬送人員を「重症度」別に分析し、その結果を将来予測にいかす

3



20年度のコロナ期間では重症者は減らず、中等症や軽症が減った。
⇒中等症の受入れが多い病院の入院患者への影響がみられる。

【A市（13万人都市）重症別の搬送件数 19年度vs20年度】



4



3. 本市の救急搬送への影響について

5



3. 本市の救急搬送への影響について

東北労災病院、仙台赤十字病院が 市外に移転した場合の影響は

■ 現状

- ①東北労災と仙台赤十字への救急搬送者数：5,235人 約15人/日
- ②仙台市外から仙台市内への救急搬送者数：6,102人 約17人/日

②が①を上回る。

労災と日赤が移転した場合、

②名取市と富谷市からの仙台市内搬送患者はそれぞれの市で対応可能となるようにみられるが、本当にそうなのだろうか。全体の救急医療需要は満たされるのか？

6



東北労災病院、仙台赤十字病院が 市外に移転した場合の影響を分析する

■ 名取市と富谷市の救急医療ニーズ

- 2病院が移転した場合、市内流入の名取と富谷市の軽症患者（全体の4-5割）は移転先2病院で対応可能だろう。
- 一方重症者は、仙台市内の三次救急施設へ搬送されるだろう。
- 中等症は、労災と日赤が担う重点救急医療によって受入れ可否が別れる。

⇒ 2市から市内流入の救急患者について

- 2市が担う救急医師体制、立地（住所）
- 救急搬送「重症度別」（消防データ）より
 - 1) 現在の仙台市へ搬送の2市救急患者が、移転後は2市内に搬送される需要
 - 2) 2市の救急患者が移転後も仙台市内に流入する需要を予測する。



東北労災病院、仙台赤十字病院が 市外に移転した場合の影響を分析する

■ 仙台市の救急医療ニーズ

- 2病院の移転は、主に整形（東北労災）や周産期（仙台赤十字）の救急機能の移転を伴う。
- 仙台市1割の救急患者に対応する2病院の他市への移転は仙台市内の救急体制に影響はないのか。

⇒ 2病院の市内救急需要を把握し、供給欠如が予測されるなら、どのように他施設で対応できるかを検討。

- 2病院の救急受入実態（DPCデータより）
- 救急搬送「重症度別（・疾患別）」（消防データより）
 - 1) 労災病院と日赤病院が対応する救急患者を地域別・疾患別・重症度別に分析
 - 2) 2病院の救急医療機能が他市に移転した場合の影響を分析



■ 仙台市の応需率は70%前後と低い（全国平均約78%※）
改善（伸びしろ）の余地は大きい

- ✓ 救急医療の質の視点：消防や住民からの信頼ロス
- ✓ 病院経営の視点：救急医療の機会収益ロス（対非常勤医師人件費）
救急搬送患者は、紹介患者よりも「入院移行率」が高く、
予定入院より「1入院あたりの収益」が高い

※令和2年版救急・救助の現況より試算

9



経営的な側面だけでは、救急患者の1入院あたりの収益は予定よりも大きい。一方で、1日あたりの入院単価は、予定患者の方が高い。

【予定患者と緊急患者の収益的な違い】

項目	予定患者	救急患者
対象例数	2,482,895症例数	2,179,718症例数
1入院あたりの平均収益	866,929円	1,055,114円
1日あたりの平均入院単価 (DPC病棟)	90,495円	62,937円
平均在院日数(DPC病棟)	9.4日	15.9日



GLOBAL HEALTH
CONSULTING

<http://www.ghc-j.com>
ご質問は：info@ghc-j.com